自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

Eジャーナルしずおか

静岡県教育委員会
教育広報紙

平成25年（2013年）3月6日 水曜日 109 第109号

発行・編集　教育政策課　〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号　TEL 054-221-3168　FAX 054-221-3561　E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

教育という職のすばらしさ vol.10

教育という職に誇りを

静岡県教育委員会　教育長　安倍　徹

子どもとともに（移動教育委員会にて）

本コラムも、いよいよ最終回となります。

これまでに登場された9人の先生方のお話から、「教職のすばらしさ」を改めて実感しています。

授業ができるすばらしさ

授業は学校教育の中枢です。子どもたちが、自分で考えたり他の人の考えに触れたりしながら自らを高めていけるよう、教師は工夫を凝らして授業を作り上げます。

そこには、やり直しの利かない厳しさがある反面、無から有を生み出すという「創造の喜び」も見出すことができるのです。

子どもの成長に関わることができるすばらしさ

子どもと接するとき、私たちは、今この子が何を必要としているのか、を考えているはずです。同時に、自分の言動が、たとえ無意識であったとしても、子どもに大きな影響を与えることも忘れてはなりません。

教師の一言で、子どもは大きく成長します。教職とは、常に子どもに寄り添うことが求められる崇高な職であり、だからこそ、これほどやりがいのある仕事はない、と思うのです。

子どもと「夢」を共有できるすばらしさ

自分の未来を自由に想い描くのは簡単ですが、それを実現させる道筋を考えることは、決してたやすくありません。具体的な目標を持てず、最初の一歩を踏み出せない子どももいます。

だからこそ教師は、子どもの中で眠っているスイッチが「ON」になるよう、様々に働き掛けなければなりません。子どもたちが夢を抱き、それをかなえるために動き出す。その瞬間に立ち会えることこそが、教職の醍醐味ではないでしょうか。

初心に帰る

本年度初めに、不祥事根絶への取組状況を聞くため県立学校を訪問しました。その際に、厳しく律するより、先生方に教職に対する使命感や誇りを高めていただく方が効果的である、とのお話を、何人もの校長先生から伺いました。

私も全く同感で、先に述べたような教職のすばらしさを全ての先生に味わっていただくことが、不可欠であると思います。先生方一人一人が常に初心に帰り、なぜ自分が教職に就いたのかを問い続けてほしいと思います。

異文化に触れ世界を広げる
～中国浙江省・モンゴルとの交流～

県立高校9校が浙江省の高校と覚書を交換！

平成24年12月25日、安倍教育長と県立高校9校の管理職が浙江省教育庁を訪問し、劉教育庁長と意見交換等を行いました。同日、静岡県・浙江省友好提携30周年記念式典において、県立高校9校が浙江省の高校9校と教育交流に関する覚書を交換しました。

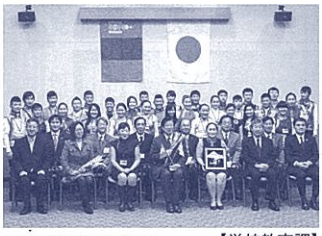
浙江省では「千校結好」事業のもと、日本を含めた海外の学校との1,000組の友好交流協定の締結を進めており、今回の覚書交換もその一環として行われたものです。

今後、各学校では教育分野における交流事業を展開し、双方の学校、教職員、生徒の理解と友情を深めていきます。

モンゴル国ドルノゴビ県高校生訪問団が来静！

1月26日～2月1日、モンゴル国ドルノゴビ県の高校生30人が静岡県を訪問しました。27日は浜松の農家を訪問し、県の特産品であるイチゴを試食し、28日には県庁を訪問し、知事表敬を行いました。生徒代表のトゥムルホヤグ・ソヨルマさんは「私たち高校生同士が友好を深め、両県の交流の力になれればと思います」と挨拶しました。29日には駿河湾フェリーに乗船、海のないモンゴルの高校生にとって船に乗ることは貴重な体験で、とても感動している様子でした。

30日は静岡城北高等学校を訪問し、同校の宿泊施設に城北高校の生徒とともに宿泊して交流を深めました。言葉が通じないこともあり最初は戸惑いも見られましたが、名刺交換などを通して徐々に打ち解け、心の通った交流ができました。31日は科学技術高等学校を訪問、理工科1年の生徒とともに英語の授業に参加したり、最先端の施設を見学したりしました。この訪問がきっかけとなり両県の交流がますます発展していくことを期待しています。


ドルノゴビ県高校生訪問団

【学校教育課】

教職員の大量交代期に果たすセンターの役割
～木を見て森を見る視点から～

木を見て森を見る

静岡県の学校教育において、「木」とは個々の学校であり、一人一人の教職員です。「森」とは、それらの全体のことです。一本一本の木の成長を促し、豊かな森を形成すること、言い換えれば、学校教育全体の充実に向けて、取組を推進するのが、総合教育センターの使命です。

今、森は、そして木は

近年、本県においても、教職員の大量採用期世代の退職に伴い、経験豊かな教職員の減少と若手教職員の増加が顕著になっており、数年後には、経験10年以下の教職員の割合が、全体の30％を超えると言われています。

このような中、各学校は、「アンバランスな年齢構成による学校運営の難しさ」という課題に直面しています。

木を育て森を育てる

このような現状を踏まえ、センターでは、本県の学校教育を支えるために、全ての学校、全ての教職員に必要な教育力、資質能力を育む研修の充実を図るとともに、それぞれの学校、一人一人の教職員が抱える課題に応じた研修や支援を推進しています。

○全ての教職員の授業力向上のために

全ての教職員の授業づくりの「道しるべ」となるよう、9教科の「静岡県の授業づくり指針」を作成し、研修や訪問を通じて、その効果的な活用を推進してきました。その結果、多くの学校において、日々の授業づくりの中でそれらが活用され、学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善への努力がなされています。

○若手教職員の向上のために

5年経験者を対象とした授業支援訪問プログラムを進めています。このプログラムの特徴的な点は、センターでの全体研修と指導主事による訪問を組み合わせ、PDCAサイクル全体で支援に努めていることです。1年間を通じて、どの5年経験者も、授業力向上の跡が顕著にうかがえます。

○各学校の教育力を支えるために

それぞれ異なる課題を抱える各学校が、教育力を高めていくためには、教職員が課題意識を共有し、様々な年代の教職員同士が、互いに学び合い、高め合う校内体制づくりが不可欠です。

そこで、センターでは、各学校において世代間交流とOJT（※）を推進するための研修に力を入れています。

具体的には、経験豊かな教職員が、若手に知識や技能等を伝えることを目指した研修（4面参照）や研修主任等が、校内研修テーマの設定の仕方や進め方を学び、各校の校内研修を活性化させるための研修が、それに当たります。これらは、研修員自らの資質を向上させるだけでなく、若手教職員や学校全体の指導力の向上をもねらったものです。

※On the Job Training の略。日常的な業務を通して、必要な知識や技能、意欲、態度等を意図的、計画的に高めていく取組のこと。

「校内研修の効果的な進め方」研修

○各学校でのOJTを一層促進するために

10年経験者研修においては、学校の中核として、若手と経験豊かな教職員をつなぐ等の「マネジメント力の育成」を重点とした内容にしていきます。

また、管理職、経験豊かな教職員、中堅教職員等に対する助言や支援を行い、校内で若手を育成するシステムを構築する研修（校内におけるOJT促進研修）も予定しています。

これらの取組との関連で、ある特別支援学校において目指すべきOJTの姿が実現されています。そこでは、小学部、中学部、高等部の多くの教職員による研究授業の参観、分析や課題の話合いにより、学校全体で授業者を支え、共に学び合う姿が現れています。

自ら育つ学校を支えるセンター

各学校が、単独では対応が困難な様々な課題を抱える中、本県全体の教育力を一層高めていくためには、今こそ、センターが、「木を見て森を見る」視点から、それぞれの学校につながり、一人一人の教職員に生かされるよう研修や訪問を着実に推進し、各学校の取組を支えていかなければならないと考えています。

【総合教育センター　総務企画課】

5年経験者（特別支援学校）の研究授業

実践NOTE 217

農業教育の醍醐味

～総合学科の専門性を生かす～

静岡県立富岳館高等学校　教諭　望月 基希

研究指導をする筆者（左端）

農業クラブ

「香る大地にがっちりと学と行とを両の手に　伸びる生命の逞しさ　明日の日本の農業に　若い息吹を吹き入れる」。全国の農業関係高校で組織する日本学校農業クラブ連盟（FFJ）の連盟歌の一節です。

平成24年10月、第63回日本学校農業クラブ全国大会が長野県で開催されました。本大会は農業関係高校の甲子園とも言われ、厳しい予選を勝ち抜いた生徒約4000人が日頃学んでいる学習成果を競い合い、健康的な競争心と友愛の心を育む場です。大会では生徒の持っているエネルギーが際立ちます。競技中の生徒の顔つきや爽やかさ、張り詰めた声、見ている私もすがすがしい気持ちになります。全国大会出場は農業関係高校の生徒の憧れであり、目標です。

全国大会での研究発表（3年連続出場）

最優秀賞を受賞（2年ぶり3度目の受賞）

本校の足跡

本校からは本年度の全国大会・プロジェクト発表会（区分「環境」）と農業鑑定競技会（区分「農業」）、家畜審査競技会（全国和牛能力共進会）に出場し、プロジェクト発表会では最優秀賞である文部科学大臣賞を、農業鑑定競技会は優秀賞（2人）をいただきました。

本校には農業を学ぶ生徒100人がおり、9のプロジェクトチームがあります。生徒は「農」をキーワードに大学や農家、企業と結び付きを持ちながら、授業で学んだ個の知識・技術を、総合化した専門知識・技術へと深化・発展させています。一時、研究に挫折しても、改めて活動を再開するなど、生徒からは向上心を持って学習することを是とする雰囲気を感じます。この過程はまさに「科学性・社会性・指導性」（農業クラブの3大目標）が育つ農業学習であり、農業教育の醍醐味です。

総合学科だからできる専門教育

本校には4つの専門系列（生物生命（農業科）・健康福祉（家庭科・福祉科）・建設デザイン（工業科）・情報ビジネス（商業科））があります。そこで、本校は各系列の特長を生かした「総合学科だからできる専門教育」を考えました。テーマは地元の高校生にしかできない「ご当地バーガープロジェクト」。商品名は「宮喰（みやくう）バーガー」（富士宮の「宮」と食を意識した「喰」の組み合わせ）です。具体的な取組として、生物生命系列は自ら育てた食材（富士宮の伝統野菜・村山ニンジン）を提供し、健康福祉系列は調理を行い、建設デザイン系列は売り場のブース・看板を作り、情報ビジネス系列はマーケティングと会計を行いました。

生徒が考案した「宮喰バーガー」

11月の富士宮市制70周年事業で「宮喰バーガー」を販売しました。多くの市民の皆様が会場を訪れ、2日間で600個を完売しました。販売後、毎日夜遅くまで準備した生徒の顔に充実感が満ち溢れていました。

「農」が持つ陶冶性

「『農』には陶冶性がある」といわれます。農業を学ぶと、そこに含まれている自然の摂理や人間の英知に触れる可能性があります。すると「生きる」ということに思いが至り、人間性が育まれます。

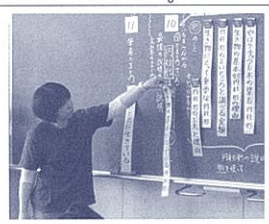
農業教育に哲学を持ちながら、明日の日本の農業に若い息吹を入れることができる生徒を育てていきたいと思います。

宮喰バーガーを販売する生徒

実践NOTE 218

確かな学力は「自分の言葉で語ること」から

御前崎市立第一小学校　教諭　伊藤 友美



本校は「授業で子どもを育てること」を学校の柱としています。授業は、習得・探求・活用の場と捉え「自分の言葉で語ること」こそ、今、求められる「確かな学力の育成」につながると考えます。そのために研修主題を「聴いて、考え、つなげる授業づくり」とし、言語活動の充実を基盤とした国語教育の授業づくりに取り組んでいます。

「聴くこと」を大切に

自分の言葉で語る力を伸ばすために、まず聴くことの指導に力を入れました。「○さんの考えをもう一度言ってみて」「○さんと○さんの考えは何が違うの？」「○さんの考えは分かる？」など、能動的に聴くことができるよう繰り返し指導しました。そのうち、自然に、「つまり○君が言いたいことはね」「みんなの話をまとめるとさあ」「ぼくの言っていること分かる？」など子ども同士で聴き合い、つながりのある展開が生まれています。

同時に、教師は子どもの発言を正確に聴いているのか調べるため、自らの授業を録音し、教師と子どもの言葉を分析しました。

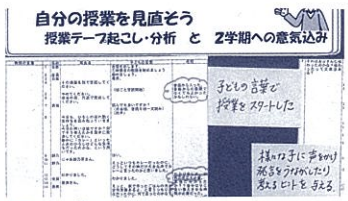
その結果、子どもの発言の2倍以上を教師が話していた事実、さらに子どもの言葉を都合よくとって教師の思いで進めてしまう授業展開などが明らかになりました。

「ごめんなさい、聴いていないのは私です」

「意見出ず、焦ると口数多くなる」

など教員同士で、本音川柳を詠み合いました。

このような分析を繰り返すことにより、教師こそが子どもの言葉を正しく聴き取っているかどうかが、事後研修の度に話題になっていきました。



授業のテープ起こしと分析

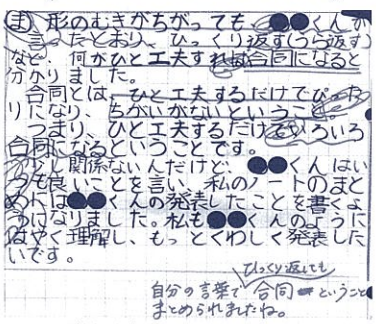
「書くこと」を大切に

「聴くこと」に加え、さらに重視した取組は「書くこと」です。「自分の言葉」を目に見えるようにすることが思考力、判断力、表現力などを伸ばすことにつながると考えています。

「課題に対する自分の考えを書く」「自分の考えを文や絵や図で書く」「分かったことを書く」「友達から学んだことを書く」「感想を書く」「新たな問いを書く」「まとめを書く」など、必ずどの授業でも、どこかで書く場面を設定しました。

そして教師は子どもの書いたノートに赤ペンを入れます。その子の考えを認めたり、その子のつまずきや理解度を把握したりします。そして子どもの問いが連続する授業展開につなげていきます。

教師が丁寧にノートを見取ることによって、子どもたちはより「書くこと」を楽しむようになりました。短時間で丁寧な字で書けるようになり、書く量も増えました。さらに自分の思考の深まりや変容まで分かるようになり、自信を持って授業に臨む子が増えています。



ノートから子どもを理解する

「教材で教えること」を大切に

国語科において教師が「教材を教える」のではなく「教材で教える」意識を高めています。例えば、低・中学年の説明文では「始め・中・終わり」の読み方を身に付けています。その結果、高学年では筆者の意図と文章構成をつかみ、自らの考えを明確にすることができるようになりました。学年の系統性を押さえた上で身に付けたい力を明らかにしていくことを研究しています。

「これから」を大切に

「聴いて、考え、つなげる授業づくり」に全教員で取り組んできたことで、子どもたちは確実に「自分の言葉で語る」ことができるようになっています。

「いろいろな物語のあらすじを比べたいな」「説明文から筆者の意図を読むっておもしろい」「もっと自分の言葉で文を書きたい」「友達は何て考えたか知りたいな」など、子どもの思いに応えながら確かな学力の育成に向け研修を継続しようと思います。

自分の言葉で語る

フィジーの教育現場から

～現地で出会った学びの心～

どの生徒にも笑顔が溢れています

皆様、いかがお過ごしでしょうか。県立佐久間高等学校に在籍している徳野新です。

平成23年7月からJICA青年海外協力隊で、フィジーにある「シーラセントラルハイスクール」で活動しています。首都から北へバスで50分くらいのところにあるキリスト教系の学校で男女共学です。

私は、TT（チームティーチング）を通して、現地教員の指導力向上と生徒の支援を行っています。現地教員のレベルは予想以上に高く、日々学ぶことも多いです。日本の高校で学習しない内容も多々扱っています。日々の授業の中で、日本での教え方を共有することによって、数学の良さに触れる指導法等について、向上を図っています。校内での研究授業も毎学期実施していて、現地教員同士が様々なアイディアを共有する貴重な時間となっています。

また、私の所属する学校以外にもフィジーでは5人の理数科隊員が活動しています。合同での研究授業や、ワークショップを定期的に実施しています。昨年は、Form3（中2相当）の教科書改訂を教育省と共に行いました。教科書は国の教育を担う大切なものであり、その作業に関われたことをうれしく思うと同時に、責任の重さを感じました。その教科書は今年度から全生徒に無償で配布される予定です。

フィジーの生徒は、正直あまり勉強が得意ではありませんが、何かを学びたいという気持ちは日本の生徒と同様にあり、素直で明るい子たちばかりです。教育の仕組みや、やり方は違っても、根本にあるものは同じように感じています。

フィジーでは日本と違い、時間がゆっくりと流れます。多少遅れても気にすることはありません。人々は親切で皆が助け合って生きています。計画を立てて物事を進めるのは苦手ですが、直前にはやり遂げてしまいます。

私は今月で帰国となります。「日本人がいてよかった」と思ってくれるように、できるだけのことはやって、任期を全うしたいと思います。残りの期間は少ないですが、今を楽しく生きる彼らとの生活を楽しみたいです。

【県立佐久間高等学校　教諭　徳野　新】

環境教育を理解し、生徒への指導に生かす！

～高等学校新任教員に対する環境教育研修～

持続可能な社会の構築に行動できる人づくりを進めるため、県では、県教育委員会と連携して環境教育・環境学習の推進に取り組んでいます。

公立高等学校初任者研修で環境教育が行われています

研修には、教員が環境教育を理解し、生徒への指導、教科指導や総合的な学習等の指導に生かす意欲が高められるよう、環境分野の基礎的な知識と体験的な学習の指導技術を兼ね備えた環境NPOのスタッフが講師として派遣されています。

そこでは、講師から提供される自然体験をテーマとした学習プログラムを体験し、体験後には、展開されたプログラムの裏にある指導者側の「意図」の解説が行われ、研修の学びを授業に生かすための「ふりかえり（情報の共有）」も行われます。

心に環境教育の意識を

学習指導要領の改訂により、これまで以上の環境学習の充実が求められています。また、学校だけでなく、家庭、地域などの様々な場所においても、自然に触れるなど環境教育の意識を持つことが大切です。県においても、教員の皆さんが、積極的に環境教育に関われるよう本紙や学校等への案内を通じて、環境学習の情報提供などに努めていきます。

視覚以外の感覚を研ぎ澄まして自然に触れる

問　環境ふれあい課　☎054（221）2919

「優秀教職員表彰」被表彰者の決定

静岡県教育員会は、平成24年度静岡県教育委員会優秀教職員表彰の被表彰者を決定しました。

この表彰は県内の公立学校（政令指定都市を除く）に勤務する教職員の中で、学習指導、生徒指導、進路指導、特別支援、学校体育や学校保健、学校給食、部活動、学校運営等で優れた教育実践や顕著な成果を挙げた教職員を称揚するものです。

被表彰者数は次のとおりです。

平成24年度 優秀教職員表彰被表彰者数

校　種	被表彰者数（人）		
	計	男	女
幼稚園	9	0	9
小学校	163	66	97
中学校	104	75	29
高等学校	140	112	28
特別支援学校	29	12	17
合計	445	265	180

【教育総務課】

コラム

人権は、気楽・簡単・気分よく

教育政策課人権教育推進室長　石川 理恵子

寒い冬が終わり、まもなく暖かい春がやってきます。この冬も、休日にはレッグウォーマーが欠かせませんでした。足元が暖かいと、気持ちも楽になります。足湯は、続けると風邪を引かないばかりか、体調も想像以上に改善されるそうです。同じように心の足元を暖めるもの、それは、取りも直さず人権を大切にする心ではないでしょうか。

人権3Kから新・人権3Kへ

「きれいごと・堅苦しい・暗い」等のイメージがある人権を、タイトルにあるプラス思考に置き換えたのは、人権教育の講演会にお招きした、NPO法人えじそんくらぶ代表の高山恵子さんです。

人権は「幸せに生きたいという願いの束」と言った人がいます。いじめや体罰が社会問題になっていますが、誰もが穏やかな気持ちで生活したい、いい人間関係を築きたいと思っています。

人権を大切にすることは、当たり前のことを当たり前にすること。人権に対する意識のチェンジが、今、教職員や保護者に求められています。

あなたのことが大好き

人は名前とともに愛が与えられ、人になります。名前には、親の願いが込められています。

昨年放送されたTVドラマ「PRICELESS」。1507人の社員の名前と特徴を懸命に覚え、離れていった社員の心を取り戻した社長の姿が印象的でした。

学級担任の仕事は、まず始めに受け持った子どもたちの名前をいち早く覚えることです。名前を覚えたら、次に一人一人の良いところを早々に見付け、「○○さん、笑顔がいいね」と得意なことや特徴を褒めます。そして、その子に好感を持ち、ますます好きになります。

「目と耳と心」がどのように働き、受信するかによって、「口と手」からの発信に違いが出てくるように思います。

子どもは小さいからこそ、繊細な心を持っています。「あなたが大好き」「あなたはすばらしい」と、かけがえのない一人の人間として、ほほえみとまなざし、励ましを与えたいものです。

「お茶の間」から「学校教育」まで

何気ない日常風景の中に大切なことが潜んでいます。例えば、家族の挨拶、食卓を囲む会話、ファミリーレストランや電車の中での振る舞いなど、様々な親の所作から、子どもの心に生活感覚や人権感覚が染み込んでいきます。

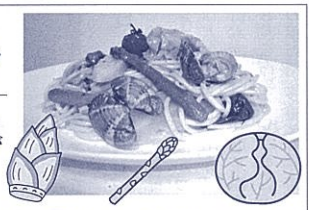
そして、学級は、家庭に次ぐ第二の所属集団です。弱者への語り掛け、失敗したときの言葉掛け、失敗を次のステップや学びに変えていく力が、教職員には必要です。

どの子にも活躍の場があり、一人一人の個性が輝き、人との関わりやコミュニケーション、言葉を大切にしながら絆を深め、いじめを許さない空気が浸透する環境の中で心の有り様を学び、人の痛みに共感し、行動する力を身に付ける。

このような学級づくりには、人権教育のキーワード（K）が散りばめられています。まさに、人権教育そのものです。

教職員のための季節レシピ④

春野菜とあさりのパスタ



年度末に向け、皆さん体調はいかがでしょうか。今回は春野菜とあさりを使った、やる気や元気が出るアミノ酸豊富なパスタを紹介します。

―材料（4人分）―（1人分のカロリー638kcal）

パスタ約400g、たけのこ（水煮）約200g、鷹のツメ4本、プチトマト12個、あさり約400g、オリーブオイル大さじ4、アンチョビ6枚、春キャベツ1/2個、白ワインまたは酒　大さじ3、ニンニク2片、アスパラガス6本、塩・こしょう適宜、パスタのゆで汁1/2カップ

―作り方―

1. あさりは、殻をこすり合わせてよく洗います。タケノコは、大きめの薄切りにし、キャベツは手で食べやすい大きさにちぎり、アスパラガスは乱切りにします。鷹のツメはヘタを落とし、種を取り除きます。ニンニクは皮をむいて、薄切りにします。
2. たっぷりのお湯に塩を加え、パスタをゆでます。ゆで上がりの1分前に、たけのこ、キャベツ、アスパラガスを加えて一緒にゆでます。
3. フライパンに、アンチョビ、鷹のツメ、ニンニク、あさり、プチトマト、オリーブオイル、白ワインまたは酒を入れてフタをして蒸し煮にします。あさりの口が開いたら火を止めます。
4. フライパンにパスタ、野菜、ゆで汁を入れて全体を混ぜ合わせ、塩、こしょうで味を調えます。

ワンポイントメモ

・ゆでるお湯2リットルに対して大さじ1強の塩が目安です。
・途中でかき混ぜ過ぎるとデンプンが出すぎて粘り、美味しいアルデンテにゆであがりません。

たけのこ…　食物繊維が豊富でお腹の調子を整える強い味方です。たけのこを切ると白い粉が出ますが、これは旨味のもととなるチロシン（アミノ酸の一種）です。新陳代謝を促し、脳を活性化します。
春キャベツ…　胃腸薬にも使われる成分ビタミンUは、粘膜を保護し胃腸を健康に保ちます。
アスパラガス…アミノ酸の一種であるアスパラギン酸は新陳代謝を促し疲労回復に効果的と言われています。

【福利課　山田管理栄養士監修　レシピ提供:教育総務課　山本】

本年度のひらめき・つなげるプロジェクトの表彰式の様子は、県教育委員会HP「ようこそ教育長室」で御覧いただけます。

あすなろAngle

ベテランが学校の風となって

—「熟練の技」伝授研修—

自分ができることは

「音楽における子どもの感性を磨く指導の仕方を若手にどう伝えるべきか」

本年度「『熟練の技』伝授研修」に参加したA教諭（小学校）のテーマです。若手対象に行った音楽科の授業公開、校内実技研修会などの実践は、所属校の教員自身が音楽の楽しさを感じることにつながりました。そして、その楽しさを、子どもたちに伝えていきたいという個々の教員の思いへと広がりました。

教職人生を語り、考える機会に

教職員の大量採用期世代の退職が始まり、ベテランの技を若手に伝えることが喫緊の課題になっています。本研修はそれを支援するものです。本年度は、2回の全体研修（講話とグループワーク）と、勤務校における伝授の実践等の選択研修で構成されています。

講話では、「これからの教職人生の持つ意味を再認識し、背中を押された感じがした」との感想が聞かれ、若手を育成する役割について理解する場となりました。また、グループワークでは、研修員各自が教職経験を振り返り、目指す教師像を語り合いました。ある研修員は、「同年代の先生方が同じような環境の中で頑張っていることが分かり、勇気をもらった。職場の先生方との信頼関係を大切にしながら、自分の役割を果たしていきたい」と、明日への展望を語りました。

グループワーク「若手教職員に伝えたいこと」

ベテランが核となって

先のA教諭の取組は、本研修の選択研修として実施されたものです。A教諭の勤務校の校長は、「自分が授業改善を呼び掛けても、なかなか浸透しないと感じていた。そんな時に、この研修がきっかけとなり、A教諭が核となって取り組んだ実践が、授業改善だけでなく組織の活性化にもつながった。A教諭の若手をリードしていきたいというモチベーションの持続と、学校内での自分のやりがいを再確認することになった」と、話されました。

来年度も、本研修への多数の参加を期待します。

【教職員研修課】

県立高校の生涯学習講座　平成25年度前期受講生募集

県教育委員会では、社会人等を対象に、三島長陵、静岡中央、科学技術及び浜松大平台の各高校の施設を活用し、毎年前期（5月～7月）と後期（10月～12月）に分け、多彩なメニューの生涯学習講座を開講しています。

三島長陵高校の最近の人気講座は、中国語です。講師の王先生は、元気はつらつでユーモアがあり、いつも受講生を和ませてくれます。しかし、発音には厳しく、何度も発音練習をします。また、生涯学習講座であるにも関わらず、なんと宿題まで出してしまう熱心さ。このあたりの厳しさが人気の秘密なのかもしれません。

この春、皆さんも新しい仲間と新たな学びに挑戦してみませんか?

※設置講座の内容等は、学校によって異なりますので、詳しくは各校にお問い合わせ下さい。

■開講期間　5月～7月の週1回（全8回、一部講座は全10回）

■申込期間　4月1日（月）～4月20日（土）

■受講料　5,600円～　※教材費等が別途必要です。

■詳細・問合せ

学校名（担当するPFI事業者）	電話番号／FAX
三島長陵高等学校	TEL055（986）2000／FAX055（986）0570
静岡中央高等学校　生涯学習振興室	TEL054（209）2431／FAX054（209）2278
科学技術高等学校（（株）PFIするがの技）	TEL050（3541）8900／FAX054（269）9295
浜松大平台高等学校（エムズ倶楽部）	0120（24）2880／FAX053（474）8233

※ホームページは 各学校名 生涯学習講座 検索

【学校教育課高校再編整備室】

毎年4月2日は『世界自閉症啓発デー』

4月2日～4月8日は『発達障害啓発週間』

平成19年、国連は自閉症の方が安心して生活できる世界になることを願い、毎年4月2日を世界自閉症啓発デーと定めました。日本では、この日から8日までを「発達障害啓発週間」とし、全国各地で研修やイベント等が行われます。

4月2日の夜、世界中の人々が各国の日没と共にブルーの光で自閉症支援のメッセージを発信します。日本では東京スカイツリーをはじめ全国各地の名所旧跡がライトアップされます。静岡県内でもいくつかの施設に協力していただける予定です。皆さんもちょっとした“青”を身にまとい、一緒に自閉症について考える日にしてみませんか?

イベント等の情報は

世界自閉症啓発デー 検索

【静岡県発達障害者支援センター】

沢のぼり、ハイキング、ゲーム大会などで楽しもう!

観音山子どもフェスティバル

新緑の観音山で沢のぼりやハイキングを楽しみませんか?

ゲーム大会や観音山ならではの素敵な景品が当たるビンゴ大会もあります!

◇日　時　第1回　4月27日（土）
　　第2回　4月28日（日）
　　〈各回とも9時～15時30分〉

◇参加費　500円（保険代等）

◇申込み　4月7日（日）9時から電話にて。（各回先着150人）

問・申　静岡県立観音山少年自然の家
〒431-2201　浜松市北区引佐町東久留女木字観音山
TEL054（545）0111

園地散策のススメ

見所は図書館だけではない

県立中央図書館は、各分野の専門書、貴重書を含め約73万冊の書籍を揃えています。これは県立中央図書館の一部に過ぎません。実は、当館の所有する敷地は、約140万平方メートル、東京ドーム3個分の園地となっており、隠れた見所がたくさんあります。

黄色や緑色の桜?

園地には一年を通して様々な方が早朝から散歩に訪れます。春には、多くの木々が花を咲かせ、芝生公園に咲く桜は見応えがあります。

園地内の桜の中には、数百種類ある桜の品種の中で唯一、淡黄色の花を咲かせる鬱金桜や、緑色の八重桜の御衣黄があり、遠方から花見に訪れる方や、電話で開花の様子を問い合わせる方もいます。

ビタミン発見?

園地には物質としてはじめてビタミンBを発見した静岡県出身の鈴木梅太郎博士の胸像が建立されています。胸像は、目立たない所にありますが、園地と図書館をそっと見守ってくれているかのようです。

日本一のお茶?

静岡鉄道県立美術館前駅から図書館へ向かうプロムナードの途中には、日本における栽培茶樹の8割を占めるやぶきた茶の原樹が移植され、開発者の杉山彦三郎翁と喫茶の習慣を日本に伝えた栄西禅師の石碑が建立されています。県指定天然記念物であるその原樹の堂々とした風貌は、百年余の歴史を感じさせます。

その他にも県立美術館の様々なオブジェ、県立大学の芝生公園など、遠足によし、読書の間の散歩によし、散策ポイントがいっぱいです。ぜひ一度園地を訪れてみませんか。

【県立中央図書館総務課】

"EDITOR"

◇1月は行ってしまいました。2月も逃げてしまいました。3月は始まったばかりですが、去ろうと隙を狙っています。そんな3月をガッチリとつかまえ、やり残しがないようにしたいものです。

◇物を大切にしよう。当たり前のことですが、当たり前のことを何度も聞くぐらい、当たり前でないのかもしれません。例えばぬいぐるみに名前を付けるように、鉛筆、消しゴムに名前を付ける。ただ、それだけで、名前のないときに比べてその物（子）を大切にしようと感じます。

Eコラムに「名前とともに愛が与えられ」とありましたが、まさにそれではないでしょうか。物を大切にする気持ちはいいのですが、物に向かって話し掛けるのはホトホトに。（まさ）

【美しい!と感じる心を子どもたちに。静岡県出身の偉大な写真家が魅せる、色あせない景色】

大竹省二写真展　PASSAGE～旅の行方～

3/16（土）～4/7（日）10:00～17:00（最終入場16:30）期間中無休

グランシップ　6階展示ギャラリー

日本の戦後写真史に数多くの実績を残した静岡県出身の写真家大竹省二の作品展。世界中を旅して出会った瞬間をテーマに、モノクロ写真121点を展示。ヨーロッパの街角で撮影されたモノクロ写真はまるで映画のワンシーンのよう!
時間を経てもなお新鮮に映る、その技量に驚かされます。

入場料:500円（前売り450円）※28歳以下の学生、障害者福祉手帳などをお持ちの方は無料。

【お問い合せ】グランシップチケットセンター TEL054-289-9000

主催:財団法人静岡県文化財団、静岡県

GRANSHIP

©Shoji Otake

広告

Eジャーナルしずおかは48,000部発行　市町教委等の御協力により、静岡県の全ての公立学校等教職員一人一人に配布されています。　図書館や公民館にも配架され、一般の方も御覧いただけます。